

金子みすゞ童謡の中国語訳の試み (二)

樊

穎

二〇一一年三月十一日、東日本大地震後、テレビで繰り返し流れるACジャパンのコマーシャル金子みすゞの詩「こだまでせうか」に、日本全国の人々が心を打たれた。

その際にも筆者は金子みすゞの詩から受けた感動を何かの形で表現したいと思い、「海」をテーマにした二十首の詩と「こだまでせうか」を中国語に訳し、『城西人文研究』第三十一巻(二〇一二年三月)に発表した。

金子みすゞの詩の中国語訳は、早くも呉非さん(現山口大学の非常勤講師)の精力的な活動により、『向着明亮那方』(新星出版社 二〇〇七年)『星星和蒲公英』(新星出版社 二〇一二年)などの翻訳が出版されている。また、二〇一二年、下関市在住の中国語講師閻先会

さんは、金子みすゞの詩全五百十二篇を中国語に訳し、日中国交正常化四十周年記念として、金子みすゞ記念館に寄贈した。

先輩翻訳者たちの活動により、金子みすゞの詩は少しずつ中国語圏の人々に知られ、人々の心を癒している。今更自ら新しく翻訳する意義があるのかと自分に問いかけたこともあったが、翻訳は十人十色であり、翻訳する人は年齢、性別、生活経験などの違いによって、違う感性を持ち、異なる言葉づかいをし、同じ詩に対しても、それぞれの理解と表現があると思う。せひ自分の言葉で、私を感じた金子みすゞを伝えたいという気持ちで、翻訳を続けることにした。

今回は「寂しい」をテーマに以下の詩を訳した。寂しい気持ちを抱えながら必死に母さんの注意を引き、お母さんの愛を求めている女の子が、みすゞの詩の中で描かれている。それはみすゞ自身の経験とも深く関わっていると思われる。みすゞは幼いころ父に死別され、十代のころ、母も再婚し、家族からの愛情が一番必要な子供時代に、それを満足にもらえなかった。みすゞの寂しさは「お母さん」の存在と離れて考えることができない。「寂しい」というテーマの詩を訳すことによって、みすゞの心の世界への理解がさらに深まっていくことができると考えられる。

翻訳に使用したテキストは、JULA出版局から出版されている『金子みすゞ童謡全集』(六冊)である。

（一） 小さなうたがい

あたしひとりが
叱しかられた。

女のくせにって
しかられた。

兄さんばっかし

ほんの子で、

あたしはどっかの

親なし子。

ほんのおうち

どこかしら。

（二） 小小的怀疑

只有我一个
每次都挨骂。

因为没有女孩样儿
每次都挨骂。

好像只有哥哥

才是亲生的，

而我却像是

捡来的没娘儿。

我真正的家

到底在哪里？

(二) さかむけ

なめても、吸^すっても、まだ痛^{いた}む
紅^べさし指のさかむけよ。

おもい出す、

おもい出す、

いつだかねえやにきいたこと。

「指にさかむけできる子は、

親のいうこときかぬ子よ。」

おとつい、すねて泣いたっけ、

きのうも、お使いしなかった。

母さんにあやまりゃ、

なよろうか。

(二) 倒刺儿

舔^な、吸^す、还是痛
无名指长了个倒刺儿。

想起来了、

想起来了、

以前听姐姐说过。

『长倒刺儿的孩子，

是不听话的孩子。』

前天，我任性、哭闹不休，

昨天，也没有给妈妈帮忙。

快向妈妈道个歉，

倒刺儿快好吧。

（三） 忘れた唄わすれたうた

野茨のばさのはなの咲さいている、
この草山くさやまにきょうも来て、
忘れた唄わすれたうたをおもいます。
夢ゆめより遠い、なつかしい、
ねんねの唄うたをおもいます。

ああ、あの唄うたをうとうたら、
この草山くさやまの扉とがあいて、
とおいあの日ひのかあさまを、
うつつに、ここに、みられましたよ。

きょうも、さみしく草くさにいて、
きょうも海うみみておもいます。
「船ふねはしろがね、櫓こがねは黄金こがね」
ああ、そのあとの、そのさきの、
おもい出せないねんね唄うた。

（三） 遗忘的歌谣

野蔷薇のばいばい盛开的山坡，
今天我又来了，
回想那遗忘的歌谣。
回想那比旧梦还遥远，
令人怀念的摇篮曲。

啊，只要唱起那首歌谣，
山坡会打开神秘的大门，
好像回到遥远的旧日，
妈妈重新出现在眼前。

今天我也寂寞地坐在草地上，
今天我也看着大海终日回想。
『银色的船儿、金色的櫓』，
啊，这句之后和之前，
是那总也想不起的摇篮曲。

(四) 私のお里わたし

母さまお里は

山こえて、

桃の花さく

桃の村。

ねえやお里は

海越えて、

かもめの群れる

はなれ島。

私のお里は

知らないの、

どこかあるよな

気がするの。

(四) 我的故乡

妈妈的故乡

翻过山，

在桃花盛开的

桃源村。

姐姐的故乡

越过海，

在海鸥成群的

离岛。

我的故乡

在哪里？

一定在某个

遥远的地方。

（五）喧嘩のあと

ひとりになった
ひとりになった。
むしろの上はさみしいな。

（五）吵嘴之后

只剩我一人，
只剩我一人。
坐在草席上，好寂寞。

私は知らない
あの子がさきよ。
だけでもだけでも、さみしいな。

不关我的事，
是那个孩子先吵的。
可是、可是，好寂寞。

お人形さんも
ひとりになった。
お人形抱いてもさみしいな。

布娃娃也
一个人孤零零。
抱着布娃娃，还是好寂寞。

あんずの花が
ほろほろほろり、
むしろの上はさみしいな。

杏花
悄然飘落，
坐在草席上，好寂寞。

(六) 赤いお舟ふね

一本松

一本立って

海みてる、

私わたしもひとりで

海みてる。

海はまっ青、

雲は白、

赤いお舟は、

まだみえぬ。

赤いお舟の

父さまは、

いつかの夢ゆめの

父さまは、

一本松

(六) 红船

一棵松

孤独直立

眺望大海、

我也孤寂一人

眺望大海。

大海碧藍、

云儿雪白、

红色的船儿、

依旧看不见。

乘着红船的

爸爸、

我梦中的

爸爸、

一颗松、

一本松
いつだろうか。

一顆松、
（爸爸）何時才回来？

(七) 箱庭

私のこさえた箱庭を、
たあれも見てはくれないの。

お空は青いに母さんは、
いつもお店で忙しそう。

まつりはすんだに母さんは、
いつまであんなにいそがしい。

蟬のなく声ききながら、
私はお庭をこわします。

(七) 沙盘

我做的沙盘，
谁也不来看。

天空碧蓝，可妈妈
总在店里忙碌。

集会已经结束，可妈妈
永远那么忙碌。

听着蝉鸣，
我摔碎了沙盘。

注：「箱庭」，原意指源于中国的盆景艺术。但在这里与盆景无
关，而是指孩子们的一种游戏。在沙盘里任意摆放喜欢的
玩具或小物件，以创造或表达自己的内心世界。译者注。

（八） ながい夢^{ゆめ}

きょうも、きのうも、みんな夢、
去年、一昨年^{おとし}、みんな夢。

ひよいとおめがさめたなら、
かわい、二つの赤ちゃんで、
おっ母^かちゃんのお乳^{ちち}をさがしてる。

もしもそうなら、そうしたら、
それこそ、どんなにうれしかる。

ながいこの夢、おぼえてて、
こんどこそ、いい子になりたいな。

（八） 长梦

今天、昨天、都是梦，
去年、今年、都是梦。

忽然睁开眼，
又变回可爱的两岁小婴儿，
寻找着妈妈的乳头。

如果是这样，如果是这样，
那该多高兴！

我会记住，这个长长的梦，
这次一定要，做个乖孩子。

(九) 口真似——父さんのない子の唄——

「お父ちゃん、

おしえてよう。」

あの子は甘えて

いっていた。

別れてもどる

裏みちで、

「お父ちゃん。」

そっと口真似

してみたら、

なんだか誰かに

はずかしい。

生垣の

しろい木槿が、

笑うよう。

(九) 学嘴——没有爸爸的孩子的歌

『爸爸，

教教我啊！』

那个孩子撒着娇，

这样说。

分开后又回到原地，

路边角落里，

『爸爸……』

我悄悄模仿

他的口气，

怕别人听见

又羞又喜。

篱笆上的

白色木槿花

咧嘴笑了。

（十） 闇夜の星

闇夜に迷子の

星ひとつ。

あの子は

女の子でしようか。

私のように

ひとりぼっちの、

あの子は

女の子でしようか。

（十一） 暗夜之星

漆黑夜空里，迷路的

星一颗。

那颗星

是小女孩吗？

像我一样

孤单一人，

那颗星

是小女孩吗？

(十一) お使い

お月さま、

私は使いにまいます。

よその嬢ちゃんのおべべ、
しっかり胸に抱きしめて。

お月さま、

あなたも行ってくださるの、

私の駆けてゆくところへ。

お月さま、

いたずらっ子に逢わなけりや、

いつも私はうれしいの。

おかあさんのおしごとを、

よそへ届けにゆくことは。

それに、それに、

お月さま、

(十二) 小帮手

月亮啊月亮，

我是妈妈的小帮手。

把给远处的小姑娘做的漂亮衣服，
紧紧抱在胸前。

月亮啊月亮，

你也和我一起去吗？

我要送去的地方。

月亮啊月亮，

只要不遇见调皮的孩子，

我都很开心。

帮妈妈把缝制好的衣服

送到远方。

还有、还有、

月亮啊月亮，

私はほんとにうれしいの。
あなたがまあるくなるころに、
私も春着ができるから。

我真的好高兴，
等你变得圆圆的时候，
我的春装也做好了。

(十二) あるとき

お家うちのみえる角へ来て、
おもい出したの、あのことを。

私わたしはもっと、ながいこと、
すねていなけりゃいけないの。

だって、かあさんはいったのよ、
「晩ばんまでそうしておいで」って。

だのに、みんなが呼びよびにきて、
わすれて飛んで出ちゃったの。

なんだかきまりが悪いけど、
でもいいわ、

ほんとはきげんのいいほうが、
きつと、母ははさんは好きすきだから。

(十二) 那时候

来到家门前的拐角，
我又想起刚才的事。

我应该，
生更长时间的气。

谁让妈妈说，
『你就怄气怄到晚上吧。』

可是，大家喊我出去玩，
忘了生气就奔出去。

虽然有点尴尬，
不过，算了。

其实我高高兴兴的，
妈妈一定更喜欢。

（十三） さびしいとき

私がさびしいときに、
わたし

よその人は知らないの。

私がさびしいときに、

お友だちは笑うの。

私がさびしいときに、

お母さんはやさしいの。

私がさびしいときに、
ぼとけ

仏さまはさびしいの。

（十三） 寂寞的时候

我寂寞的时候，

别人不知道。

我寂寞的时候，

朋友笑呵呵。

我寂寞的时候，

妈妈好温柔。

我寂寞的时候，

佛也很寂寞。

(十四) 誰がほんとを

誰がほんとをいうでしょう、
私のことを、わたしに。

よその小母さんはほめたけど、
なんだかすこうし笑ってた。

誰がほんとをいうでしょう、
花にきいたら首ふった。

それもそのはず、花たちは、
みんな、あんなにきれいだもの。

誰がほんとをいうでしょう、
小鳥にきいたら逃げちゃった。

きつといけないことなのよ、
だから、言わずに飛んだのよ。

誰がほんとをいうでしょう、
かあさんにきくのは、おかししいし、

(十四) 谁告诉我真话

谁能告诉我真话，
告诉我，关于我的事。

不认识的阿姨表扬我了，
却好象挂着一丝浅浅的笑。

谁能告诉我真话，
问小花，小花直摇头。

那也是当然，花儿们，
都那么漂亮。

谁能告诉我真话，
问小鸟，小鸟逃走了。

一定是真话不能说，
所以，什么不说飞走了。

谁能告诉我真话，
去向妈妈太怪了，

（私は、かわいい、いい子なの、
それとも、おかしなおかおなの。）

誰がほんをいうでしょう、
わたしのことをわたしに。

（是问，我是不是可爱的、听话的孩子？
还是问，我是不是长了张古怪的脸？）

谁能告诉我真话，
告诉我，关于我的事。

(十五) いい眼め

山のむこうの鳩はとの眼を、
ねらって鉄砲てっぽうが射うてるよな、
いい眼が私わたしにあったなら、

町のかあさんのそばにいて、
田舎いなかの、林はやの、木の枝えだの、
小鳥の巣かけもみな見える。

沖おきの、小島の、片かたかげの、
岩いわの鮑あわびもみなみえる。

空の、夕焼の、雲のうえ、
天使のすがたもよくみえる。

そんないい眼があったなら、
いつも、母さんのそばにいて、
いろんなことをみようもの。

(十五) 好眼力

即使是山那边的鸽子的小眼睛，
也能瞄准放枪，

如果我有这样的好眼力，

待在小镇上妈妈的身边，
田野里的、森林里的、树枝上的
小鸟的巢，也都能看见。

海面上的、小岛上的、日荫里的
岩石上的鲍鱼，也都能看见。

天空中的、晚霞里的、白云上的
天使的身影，也都能看见。

如果我有这样的好眼力，
一直待在妈妈身边，
也能环望世間。

(十六) みんなを好きに

私は好きになりたいな、
何でもかんでもみいんな。

葱も、トマトも、おさかなも、
残らず好きになりたいな。

うちのおかずは、みいんな、
母さまがおつくりなつたもの。

私は好きになりたいな、
誰でもかれでもみいんな。

お医者さんでも、烏でも、
残らず好きになりたいな。

世界のものはみいんな、
神さまがおつくりなつたもの。

(十六) 都要喜欢

我希望自己无论什么都喜欢，
这个、那个、所有的。

大葱、西红柿、鱼、
一个不剩，全都要喜欢。

因为家里的饭菜，
都是妈妈做的。

我希望自己无论是谁都喜欢，
这个人、那个人、所有人。

不管是医生，还是乌鸦，
一个不例外，全都要喜欢。

因为世上所有的事物，
都是神造的。

(十七) 私わたしの髪かみの

私の髪かみの光あかりるのは、
いつも母ははさま、撫なでるから。

我的头发有光泽，
因为妈妈常抚摸。

(十七) 我的头发

私のお鼻びくの低ひくいのは、
いつも私わたしが鳴ならすから。

我的鼻子塌塌的，
因为我总是气哼哼。

私わたしのエプロンえぷろんの白しろいのは、
いつも母ははさま、洗あうから。

我的围裙雪白，
因为妈妈总是给我洗。

私わたしが煎豆いりまめたべるから。

我的肤色黝黑，
因为我偷吃炒豆子。

（十八） ころ

お母さまは

大人^{おとな}で大きいけれど、

お母さまの

おころは小さい。

だって、お母さまはいいました、

小さい私^{わたし}でいっぱいだって。

私は子供^{こども}で

小さいけれど、

小さい私の

ころは大きい。

だって、大きいお母さまで、

まだいっぱいにならないで、

いろんな事をおもうから。

（十八） 心

妈妈

虽然是大人，个儿很高很高，

但是妈妈的心，

却很小很小。

因为，妈妈说过，

她的心被小小的我装得满满的。

我虽然是小孩，

个儿很小很小，

但小小的我的心，

却很大很大。

因为，连大大的妈妈，

都装不满我的心，

我还想着很多很多事儿呢。

(十九) 女王さま

私が女王さまならば、
 国じゅうのお菓子屋呼びあつめ、
 お菓子の塔をつくらせて、
 そのてっぺんに椅子据えて、
 あまい鉛筆なめながら、
 いろんなお布令を書きましよう。

いちばんさきに書くことは、
 「私の国に住むものは、
 子供ひとりにお留守番、
 させとく事はできません。」

そしたらいまの私のように、
 さみしい子供はいないでしょう。

それから、つぎに書くことは、
 「私の国に住むものは、

(十九) 女王

如果我是女王，
 就把全国的点心师召集起来，
 建座点心塔，
 在塔顶放上宝座，
 一边舔着甜甜的铅笔，
 一边写下各种法令。

首先要写的是，
 『在我的王国里，
 不允许
 让小孩一个人留守家中。』

这样，就没有像现在的我一样
 寂寞的小孩了。

接着要写的是，
 『在我的王国里，

私の毬まりより大きい毬まりを、
誰だれも持つことできません。」

そしたら私も大きい毬まりが、
欲ほしくなくなることでしょう。

不允許

『有人有比我还大的皮球。』

这样，我就不会想要
更大的皮球了。

(二十) 玩具のない子が

玩具のない子が

さみしけりや、

玩具をやったらなおるでしょう。

母さんのない子が

かなしけりや、

母さんをあげたら嬉しいでしょう。

母さんはやさしく

髪を撫で、

玩具は箱から

こぼれてて、

それで私の

さみしいは、

何を貰うたらなおるでしょう。

(二十) 没有玩具的孩子

没有玩具的孩子

很孤单，

送给他玩具就好了。

没有妈妈的孩子

很悲伤，

找到妈妈就高兴了。

妈妈温柔地

抚摸我的头发，

玩具多得从箱子里

溢出来。

可是，

我的寂寞，

要用什么东西才能治好呢？

* 翻訳する際、中国語の文法や表現の特徴をふまえ、原文の一部の順番や句読点の付け方を翻訳者によって改めた。
* テキスト『金子みすゞ童謡全集』(現代仮名づかい版) 全六冊 JULA出版局 二〇〇三年～二〇〇四年。
原文出典一覽

- (一) 小さなうたがい(金子みすゞ童謡全集①『美しい町』・上 五〇頁)
 (二) さかむけ(金子みすゞ童謡全集①『美しい町』・上 六〇頁)
 (三) 忘れた唄(金子みすゞ童謡全集①『美しい町』・上 一四二頁)
 (四) 私のお里(金子みすゞ童謡全集②『美しい町』・下 二四頁)
 (五) 喧嘩のあと(金子みすゞ童謡全集②『美しい町』・下 五十頁)
 (六) 赤いお舟(金子みすゞ童謡全集②『美しい町』・下 七十八頁)
 (七) 箱庭(金子みすゞ童謡全集②『美しい町』・下 一〇八頁)
 (八) ながい夢(金子みすゞ童謡全集②『美しい町』・下 一二六頁)
 (九) 口真似——父さんのない子の唄——(金子みすゞ童謡全集②『美しい町』・下 一五四頁)
 (十) 闇夜の星(金子みすゞ童謡全集③『空のかあさま』・

- 上 七十六頁)
 (十一) お使い(金子みすゞ童謡全集③『空のかあさま』・上 四十四頁)
 (十二) あるとき(金子みすゞ童謡全集③『空のかあさま』・上 二〇四頁)
 (十三) さびしいとき(金子みすゞ童謡全集④『空のかあさま』・下 四八頁)
 (十四) 誰がほんとを(金子みすゞ童謡全集④『空のかあさま』・下 一四〇頁)
 (十五) いい眼(金子みすゞ童謡全集④『空のかあさま』・下 一六六頁)
 (十六) みんなを好きに(金子みすゞ童謡全集⑤『さみしい王女』・上 一〇四頁)
 (十七) 私の髪の(金子みすゞ童謡全集⑤『さみしい王女』・上 二二六頁)
 (十八) ところ(金子みすゞ童謡全集⑥『さみしい王女』・下 一六頁)
 (十九) 女王さま(金子みすゞ童謡全集⑥『さみしい王女』・下 三六頁)
 (二十) 玩具のない子が(金子みすゞ童謡全集⑥『さみしい王女』・下 一六〇頁)